

2025 年 4 月 14 日

2024 年度 総合文化研究所研究助成報告書

研究の種類 ※該当する（ ）に ○を付ける	・ 共同研究（ ） ・ 個人研究（○）	
研究代表者 (所属・職・氏名)	家政学部児童学科 助教 小澤由理	
研究課題名	戦前期における保育者の米国留学の歴史的意義	
研究分担者氏名	所属・職	役割分担
研究期間	2024 年 4 月 1 日 ～ 2025 年 3 月 31 日	

研究実績の概要（１）
1. 研究の目的 本研究の目的は、戦前期に日本とアメリカを行き来したキリスト教保育者の留学の歴史的意義について考察することである。具体的には広島女学院およびその系列学校であるランバス女学院などでアメリカ人女性宣教師たちのアメリカ留学を取り上げ、日本におけるフレーベル主義に基づく保育実践への影響を探るものである。本研究の述べるアメリカ人女性宣教師たちの留学とは、具体的には彼女たちを派遣した本国のキリスト教団体が彼女たちに支給する一時帰休（Furlough）を利用した学びのことを意味している。一時帰休とは、一定の年月を宣教地で務めた宣教師たちに対して、本国の教会団体から支給される一時的な帰国休暇、すなわち母国アメリカへの帰郷を許されたのである。日本のキリスト教幼稚園の創設と発展に勤めたアメリカ人宣教師たちは、この一時帰休によって数度もアメリカへ戻り、母国の最新の保育事情を学び、日本の保育実践の改革を行ったことは先行研究で明らかになっている。 しかし女性宣教師の一時帰休の目的は、単なる最新の欧米の学問や近代的技術の移入であったわけではない。むしろ彼女たちはアメリカ滞在中に、各地で宣教に関する講演活動や幼児教育者との交流に積極的に勤しみ、日本のミッション教育の安定と拡充を図るための人的・財的支援のネットワークを確かなものとする行動が求められた。彼女たちは、そのような出会いと交流の中で本国の人々から多くを学び、日本における保育実践へと活かしたのである。そのような女性宣教師の一時帰休の特徴を踏まえ、本研究は、女性宣教師がアメリカ滞在中に本国の人々とどのような交流と出会いを通じて幼児教育者としての経験を深めたのかに注目した。そして自由保育の源流としての日米におけるトランスナショナルな保育文化としての実践について考察することを目指した。

研究実績の概要（２）

２．研究・調査活動

○本研究の目的に則り、下記の日程で研究調査を行った。

1. 2025 年 1 月 25 日～3 月 20 日 コロンビア大学アーカイブス及びティーチャーズ・カレッジ・アーカイブスとメールによる史料の所蔵調査
2. 2025 年 2 月 26 日 広島女学院大学歴史史料館
3. 2025 年 3 月 5 日 東洋英和女学院大学資料室.
4. 2025 年 3 月 16 日～23 日シカゴ・ニューベリー図書館及びシカゴ歴史博物館での史料調査

○調査の実施とその経過について、以下に報告する。

当初の研究計画では、多くのアメリカ人女性宣教師が学んだニューヨークの 1. コロンビア・ティーチャーズ・カレッジのアーカイブスで史料調査を行う予定であった。しかしコロンビア大学アーカイブおよびティーチャーズ・カレッジ・アーカイブスに史料の所在をメールで問い合わせたところ、CTC に残された学籍名簿に記載された広島女学院大学およびランバス女学院に関わった西村静一郎、マーガレット・クック、ジェーン・フルトン、高森ふじについて、在学当時の在学証明書や成績証明書、修士論文の所在については不明瞭な点が多く、史料調査の進行は困難さを極めた。

そこで研究計画を見直し、本研究は 4. シカゴのニューベリー図書館やシカゴ博物館に所蔵される頌栄幼稚園の設立者であるアニー・ハウに関する史資料や私的文書を調査することとした。アニー・ハウは 1880 年代後半に神戸のキリスト教幼稚園と保育者養成学校を起し、日本で最初にフレネルを翻訳し広めた女性宣教師として著名な人物である。ハウは日本キリスト教幼稚園連盟のリーダーを務め、日本のキリスト教幼稚園に大きな影響をもたらした。とりわけハウは広島女学院のゲーンズと懇意の関係であり、ハウがゲーンズの教育実践や保育者養成事業を陰で支えたことは先行研究で明らかになっている。一方で、このようなハウの日本での活動は一時帰休によって何度も母国アメリカ・シカゴへと戻り、本国の人々から様々な保育理論や実践を見聞したことに支えられた。たとえばニューベリー図書館の所蔵するハウの私的文書には、シカゴ幼稚園運動を支えたアリス・パトナムや、シカゴ大学のジョン・デューイ、シカゴの有力な保育者養成校校長エリザベス・ハリスン、コロンビア大学のパティ・ヒルらとの交流したことが散見された。ハウの一時帰休中のシカゴでの出会いと学びは、日本での幼児教育実践にどのように影響したのだろうか。本研究はこのような問題意識から、アメリカ滞在中のハウの人的交流に焦点を当て、シカゴ・アメリカの幼児教育と日本の幼児教育のトランスナショナルな自由保育の源流について探求することとした。シカゴでの調査では、下記の史資料について調査を行った。

- ① ハウによるシカゴでの幼児教育に関する史資料
- ② ハウの日本派遣を支えたミッション団体の年次報告書
- ③ ハウの日本派遣を支えたシカゴのブラッチフォード家との書簡
- ④ シカゴ幼稚園運動を支えたアメリカ人保育者からの書簡
- ⑤ アメリカ滞在中のハウに届いた日本の幼児教育者からの書簡
- ⑥ ハウによってアメリカへ渡った日本人保育者からの書簡

なお上記の調査に先立って、⑤の書簡に関わった人物の予備調査として、2. 広島女学院大学のゲーンズによる保育者養成に関する史料調査および 3. 東洋英和女学院大学の女性宣教師たちに関する研究資料の調査を行った。現在は、集めた貴重な史資料を整理・分析している。今後はシカゴの幼稚園運動と日本における幼児教育運動の関連について研究成果をまとめる予定である。

研究発表(印刷中も含む)雑誌および図書

【学術論文】

1. 小澤由理「戦前におけるキリスト教主義幼稚園の保育者と留学：エリザベス・ハリスンの学校に学んだ人たち」『共立女子大学・共立女子短期大学総合文化研究所紀要』第31号 2025年3月

【研究発表】エリザベス・ハリスンの学校と日本基督教幼稚園連盟との関係について

1. 2024年5月11日 第77回日本保育学会大会@神戸大会 第三会場 オンライン
小澤由理：「保育者養成における留学の意義―戦前におけるエリザベス・ハリスンの学校と日本との交流―」
2. 2025年2月11日 第16回日本キリスト教教育学会 キリスト教教育の理論的基礎研究部会
@関東学院大学 オンライン
小澤由理：「JKU女性宣教師と保育者養成におけるアメリカ留学～ハリスンの学校では何を教えたか～」

【学会発表予定】

1. 2025年度第37回キリスト教教育学会大会 6月発表予定
小澤由理：「戦前期におけるキリスト教主義幼稚園の保育者のアメリカ留学について」

※当該研究発表が完了した後は、さらに検討を加えて学術論文として完成させ、紀要に投稿・掲載する予定である。